



地方独立行政法人 大阪府立環境農林水産総合研究所（環農水研）
水産研究部水産支援グループ 担当：辻村
TEL：072-495-5252 FAX:072-495-5600

プレスリリース

令和4年9月21日 14:00

関西空港記者会 会員各位
（同時提供 府政記者会）

栽培漁業センターで育ったキジハタの稚魚 10万尾を放流！
3年で漁獲サイズ（約500グラム）に育ちます！

環農水研水産技術センターでは、大阪湾の水産資源を増やすため、稚魚を育て放流する「栽培漁業」を大阪府・漁業振興基金※1とともに推進しています。その一環として2015年（平成27年）からキジハタの稚魚の放流を行っています。このたび、栽培漁業センター※2で卵から育てたキジハタの稚魚が放流に適した大きさ（サイズ：全長8センチメートル、体重約12グラム）に成長しましたので、下記のとおり、10万尾を大阪湾に放流します。

キジハタは大阪では「あこう」と呼ばれ、「夏のあこう」は「冬のふぐ」と並び称される最高級魚です。1990年代後半にはほとんど獲れなくなり、幻の魚とされていましたが、2000年（平成12年）から環農水研が他機関で生産された稚魚を用いて放流試験を行い、放流効果があることを確認しました。2010年（平成22年）からは稚魚の生産に取り組み、安定生産する技術確立しました。2015年（平成27年）から大阪産の稚魚の大量放流（10万尾）を毎年行っております。また、漁業者自らが積極的に全長28センチメートル以下の小型魚の再放流を行っており、それらの効果によって漁獲量は年間3トン前後まで増えてきています。さらに、環農水研が収集した科学的な知見を基に、大阪府で漁獲されたキジハタのうち一定の基準を満たすものを「魚庭あこう」としてブランド化しています。今後も「あこう」が大阪の名物となるよう調査研究を継続して行い、さらなる資源の増大を目指します。



放流するキジハタ稚魚



キジハタの放流風景

放流したキジハタは約3年で漁獲サイズ（全長約30センチメートル、体重約500グラム）にまで成長し、府民の皆様の食卓に届くことになりそうです。

※1 公益財団法人大阪府漁業振興基金

なお、種苗生産および放流事業は府が「公益財団法人大阪府漁業振興基金」に業務委託し実施しているものです。

※2 公益財団法人大阪府漁業振興基金栽培事業場

記

1 放流対象種 キジハタ（あこう）

2 放流尾数 計10万尾

3 放流日時及び放流場所

令和4年9月27日（火曜日）10時00分から岬町淡輪地先

10時00分から岬町小島地先

11時00分から岬町深日地先

13時30分から岬町谷川地先

令和4年9月28日（水曜日）10時00分から阪南市西鳥取地先

13時30分から阪南市箱作地先

令和4年9月29日（木曜日）10時00分から泉南市樽井地先

13時30分から阪南市尾崎地先

令和4年9月30日（金曜日）10時00分から田尻町地先

令和4年10月4日（火曜日）10時00分から泉南市岡田地先

11時00分から泉佐野市地先

13時30分から岸和田市地先

令和4年10月5日（水曜日）10時00分から泉大津市地先

11時00分から堺市浜寺地先

13時30分から忠岡町地先

令和4年10月6日（木曜日）10時00分から堺市地先

13時30分から高石市地先

令和4年10月7日（金曜日）11時00分から岸和田市春木地先

令和4年10月11日（火曜日）11時30分から大阪市住吉地先

令和4年10月12日（水曜日）11時30分から大阪市地先

※放流尾数は、各箇所につき5,000尾です。

4 放流後の稚魚の成長予測

今回放流する稚魚は3年で、全長約30センチメートル、体重約500グラムに成長し、漁獲対象サイズになります。

5 その他

「魚庭あこう」の基準（2018年（平成30年）5月に大阪府漁業協同組合連合会刺網部会で協議決定しました。）

- （1）全長35センチメートルかつ体重600グラム以上のもの
- （2）傷のないもの、弱っていないもの
- （3）漁業者が出荷するときに活魚であるもの

※取材上の注意

事前に栽培漁業センター（電話番号072-495-0516）までご連絡ください。放流場所等の詳細について説明させていただきます。

なお、放流に関しましては、キジハタ稚魚の生産状況により尾数が増減する場合があります。

また、当日の気象状態により、放流方法や日程、場所等を変更する場合があります。